

各関係機関団体の長 }  
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

令和6年度病虫害発生予察特殊報第2号について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

### 特殊報第2号

1. 害虫名 チュウゴクアミガサハゴロモ  
学名: *Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977)
2. 発生作物 カンキツ、カキ、イチジク

#### 3. 発生の経過と概要

2024年6月に県内のカキ産地において、地域一帯のカキ園で黒褐色から鉄さび色のハゴロモ類が大量発生した。(写真1)。その後カンキツ園(写真2)やイチジク園、街路樹のヤナギにも発生が確認され、一部ではその排泄物にカビが生えるすす病が確認された。採取された成虫を農林水産省門司植物防疫所に持ち込み同定を依頼した結果、チュウゴクアミガサハゴロモと同定された。

#### 4. 分布と国内発生状況

原産地は中国であるが、韓国で2012年、トルコで2019年、フランスで2020年、ドイツで2021年、イタリアで2022年に確認されたとの報告があり、拡大傾向にある。

国内では2017年に大阪で初めて確認されたが、その後、神奈川、千葉、東京、岡山及び徳島で発生が確認されている。作物への被害については、2024年に神奈川と埼玉の防除所から特殊報が発出されている。

#### 5. 本種の特徴と生態

##### (1) 外観

成虫の体長は14~15mm、前翅長14mm程度。黒褐色から鉄さび色の前翅の前縁の中央部に、扁平で半円形の白斑がある(写真3)。

卵塊は、他のハゴロモ科の虫と同様に白いワックス状の物質で覆われ、樹木などの枝に産み付けられる(写真4)。観察では直径10mm以下の細い枝に産み付ける傾向がある。

主な生態は不明であるが、集団で吸汁加害することが多く、極めて広食性で宿主として報告のあるものはカバノキ科、クワ科、ブナ科、マメ科、モクセイ科、ツバキ科、バラ科、ツツジ科、モチノキ科、ニシキギ科、ヒノキ科、フトモモ科など多くの木本性植物があり、またキク科の草本類にも寄生し産卵が観察されたとの報告がある。

## (2) 被害

集団で樹木の枝を吸汁し、その排泄物にカビが生えすす病を誘発する。また成虫は樹皮を剥いで産卵する（写真5）ため樹が損傷し、細枝が枯れることもある。

## 6. 防除対策

本虫に対して登録のある薬剤はないが、無防除の園では秋まで発生が継続しているものの、慣行の防除が行われるカキの栽培園では姿が見えなくなっている。産卵された枝の除去に努めるなど、個体数を減らす耕種的防除を行う。



写真1 カキの葉上の本虫



写真2 カンキツ枝上の本虫



写真3 前翅の縁に白斑がある



写真4 カンキツ枝上の卵塊



写真5 枝に産み付けられた卵

病虫害防除所のホームページでは、各種病虫害の発生状況を随時更新しています。発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病虫害防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード



最新の情報発生状況

○ X（旧 Twitter）で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

Xの本アカウント（福岡県農作物病虫害情報）へのアクセスは

URL: [https://X.com/PPDPO\\_Fukuoka](https://X.com/PPDPO_Fukuoka) または右QRコード

